

千葉大学医学部附属病院で直腸がんについて手術された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年11月19日

食道・胃腸外科

食道・胃腸外科では、経肛門ドレーン挿入およびインドシアニングリーン蛍光血流評価による直腸癌術後縫合不全発症率の減少効果に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2010年1月1日～2024年5月31日の間に直腸がんの手術を受けた方

1. 研究課題名

「経肛門ドレーン挿入およびインドシアニンググリーン蛍光血流評価による直腸癌術後縫合不全発症率の減少効果に関する研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2025年11月30日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

この研究の目的は、「経肛門ドレーン」（肛門から挿入する管）を使いつつ、「インドシアニンググリーン」という薬で再建した腸の血の流れを確認する方法を組み合わせることで、直腸がんの手術後に起こる「縫合不全」（手術で縫った部分がしっかりくっつかない状態）を減らせるかどうかを調べることです。

この研究では、2010年1月から2024年5月までの期間に、千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科で直腸がんの手術を受けた患者さんの2010年1月1日から2024年8月31日までの診療情報を使います。経肛門ドレーンを使ったり、インドシアニンググリーンで再建した腸の血流を確認する方法を使った患者さんと、使わなかった

患者さんを比べて、手術後の縫合不全の発生する割合に違いがあるかどうかを調べます。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、身長、体重、病歴、血液検査値、手術に関連する情報、手術入院中の経過情報

5. 研究組織

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：食道・胃腸外科 講師 大平 学

研究実務担当者：食道・胃腸外科 医員 岡田 晃一郎

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

食道・胃腸外科 医員 岡田晃一郎

043 (222) 7171 内線5294